

第3号 稲作管理特報

令和5年4月28日
朝日町
黒東地域農業技術者協議会

育苗管理は換気を徹底し、活力の高い苗に仕上げましょう。

品質の高い「みな穂産米」生産のため、5月10日以降の田植えと適正な植付本数・植付深さの確保、70株/坪植え及び浅水管理で、初期分けつの発生を促しましょう。

1. 4月下旬以降の育苗管理 ～換気を徹底する～

ハウス内の温度が25℃以下となるよう換気しましょう。

- 田植え1週間前頃を目安に、夜間もハウスを開け、外気に慣らしてください。ただし、気温が5℃以下になると予想される場合は閉めてください。
- かん水は、毎朝1回たっぷりを行います。フェーン時など床土が白く乾き、葉がまき始めたら、すみやかにかん水をしましょう。
- 「ばか苗」は必ず抜き取り、抜き取った苗は放置せずに埋設しましょう。

2. 代かき ～除草剤の効果をも高める～

代かきは浅水で、稲わらを埋没させるとともに、ほ場の均平に努めましょう。浅水で行うことで、一発肥料の被覆殻の流出防止にもつながります。

- 代かきは田植えの2～4日前に行いましょう。
- 代かき後の濁り水は、ほ場外に流さないでください。また畦畔沿いに吹き寄せられた浮遊物は除去しましょう。

3. 基肥 ～適正な基肥量を施用する～

施肥体系	肥料名	施用量 (kg/10a)
一発体系	Jコートコシヒカリ1号または2号	38 (側条)
分施肥体系	基肥206	30 (側条)

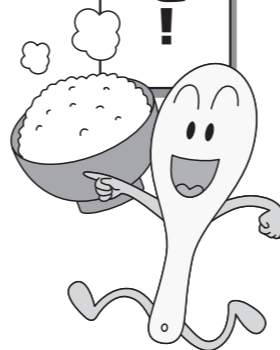
※春に堆肥を1t/10a以上散布したほ場は、基肥の施用量を1～2割減肥。

- 田植前には施肥量調節ダイヤル値を確認し、一定距離を走って落下量を確認してからご使用ください。また、ほ場毎に肥料の施用量を確認しましょう。

4. 田植え ～適正な植付けと水管理で、分けつの確保に努める～

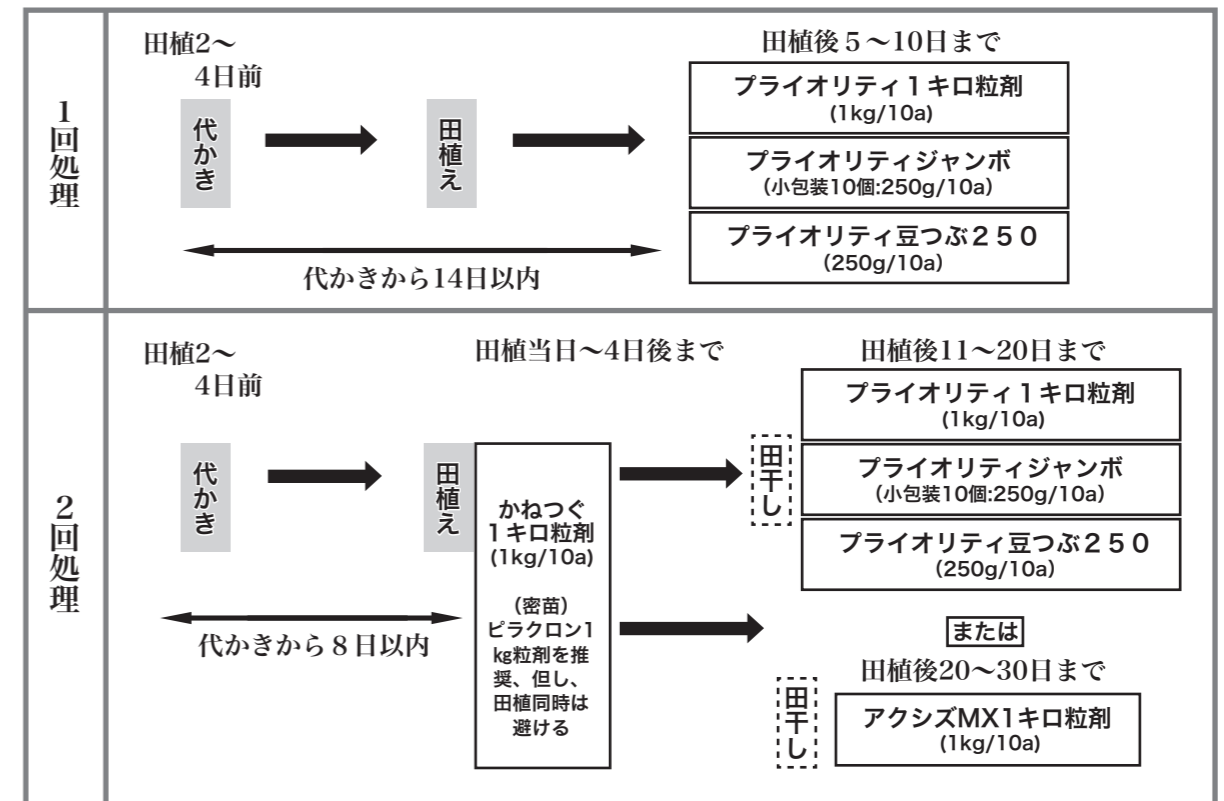
- 栽植株数は70株/坪とし、初期分けつと穂数の確保に努めましょう。
- 植付深さは3cm、植付本数は3～4本/株となるように調整してください。
- 病害虫の発生防止のため、苗箱施薬剤を散布しましょう。散布の留意点は、稲作管理特報第2号を参考にしてください(除草剤と間違えないよう、散布前に必ず確認しましょう)。
- 田植え直後は苗が水没しない程度の深水とし、活着後は水深2～3cm程度の浅水管理に切り替え、分けつの発生を促しましょう。
- 入水は朝または夕方に行い、日中は水を止めて田水温の上昇に努めましょう。

70株植えと浅水管理で初期分けつを確保し、「穂数型稲」への誘導を!



5. 除草剤の散布 ～使用方法を厳守し、適期に散布する～

- 散布前に5cm程度入水し、5日間は湛水状態を保ち、水持ちの悪いほ場は、ゆっくりと入水し田面の露出を避けてください。散布後7日間は落水をしないでください。
- 2回処理の場合、除草剤散布直前に軽い田干しを1～2日程度行うことで、藻への効果をも高めるとともに、有害なガスの発生を抑制してください。



かねつぐ1キロ粒剤を田植え同時処理する場合は、次のことに注意してください

- ①漏水の多いほ場では使用しないでください。
- ②軟弱苗の場合、田植え同時処理を控えてください。
- ③極端な浅植えや深植えにしないでください。
- ④田植え後は、直ちに入水してください。

農業は使用基準を正しく守り、使用後は栽培記録簿に必ず記載しましょう。

春の土づくり運動 (令和5年3月～5月)

春の農作業安全運動 (令和5年3月～5月)

★JAみな穂営農情報メールを配信しています。

主な情報提供内容

- ・ 水稻・大麦・大豆の生育情報及び今後の管理
- ・ 気象情報と災害防止の対策

右のQRコードを読み込み、案内に沿って手続きして下さい。

